

“デジタルアーカイブを活用した教材作り”

附属図書館で

「第10回S×UKILAM連携シンポジウム、 教材化ワークショップ」を開催！



S×UKILAM（スキラム）連携とは、学校教員と大学、研究機関、地域施設、企業、図書館、文書館、博物館や美術館等のスタッフが、共にデジタルアーカイブを活用して学校教材を作成する取組みです。2021年から主にオンラインで開催され、今回は節目の記念回として、7月30日、31日に当館とS×UKILAM連携の主催、TRC-ADEAC株式会社の協賛で、当館を会場に対面開催しました。

30日のシンポジウムでは、デジタルアーカイブに関する話題提供、各種学校教員からの授業実践報告、企業からのデジタルツールの紹介等が行われました。パネルディスカッションでは本取組みについて活発な議論が行われました。31日のワークショップでは、大学生を含む参加者が6グループに分かれて教材作成を進めました。多数の見学者が見守る中、会場は終始活気に満ちていました。

全体を通し、児童生徒の探究的な学びに効果的なS×UKILAM連携の取組みを実感できる2日間となりました。S×UKILAM連携教材化ワークショップは、今後もオンラインと対面により継続的に開催されます。みなさんもぜひ、参加してみてください。

TRC-ADEAC株式会社・ADEACラボ ▶ S×UKILAM : Primary Source Sets / スキラム連携：多様な資料を活用した教材アーカイブ

お知らせ・更新情報

2025.8.4	更新情報	①『学校司書が輝く鳥取県のDAを活用した教材とJPSを活用したバスファウンダーづくりWSの教材』、②『北海道立北方民族博物館WSの教材』、③『令和5年度 東京都歴史教育研究会 教科指導法研修会の成果物』を公開しました。
2025.7.10	更新情報	泉大津市立榊小学校WSの教材、にかほ市WSの教材を公開しました。

成果物は、「[S×UKILAM : Primary Source Sets / スキラム連携：多様な資料を活用した教材アーカイブ](#)」でご覧いただけます。ぜひ覗いてみてください。今後のワークショップ開催日程も確認いただけます。



開催報告2025年度春学期入門セミナー

2025年4月～7月に、学部1年生対象の授業「入門セミナー」内にて、附属図書館職員が講師となり図書館の利用方法（図書館ガイダンス）や文献検索方法（文献検索セミナー）についての講義を行いました。受講した学生からは、「これからの学生生活で図書館を活用したい」「小中高の図書室との違いが理解できた」などの声が寄せられました。

	内容	実施回数 (昨年度実施回数)
1	100分 ver. (図書館ガイダンス+文献検索セミナー)	27 (25)
2	50分 ver. (図書館ガイダンスのみ)	12 (13)
3	場所のみ提供	1 (1)
	合計	40 (39)

<実施内容>

・図書館ガイダンス

→ 大学での「学びのサイクル」に合わせて図書館の機能や利用方法を紹介するガイダンスや館内ツアー。今年のガイダンスは動画を用いた説明を行いました。

・文献検索セミナー

→ 図書や論文の検索方法について実習を交えながら、データベースの使い方などを紹介するセミナー。

<資料>

今年度の資料はこちらで公開しています。

[図書館ウェブサイト](#)
[>学習・研究支援>](#)
[講習会>2025年度入門セミナーの資料](#)



「教科書の中の源氏物語LOD」

利用プラットフォームを公開しました！

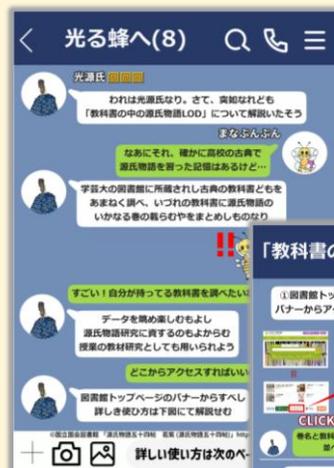
「教科書の中の源氏物語LOD」は、本学に所蔵する古典分野の戦後教科書の中から433冊を対象に、各教科書に源氏物語のどの巻が掲載されているかを調査し、Linked Open Data (LOD)形式でまとめたデータです。

この度、そのデータをウェブサイト上に公開しました。巻名、教科書名から各情報を検索でき、情報を閲覧しやすい形で整理しています。巻や教科書に関する基本情報の他、東京大学デジタル源氏物語や教科書LODとの連携により源氏物語の画像やテキスト、教科書の詳細データを閲覧することもできます。

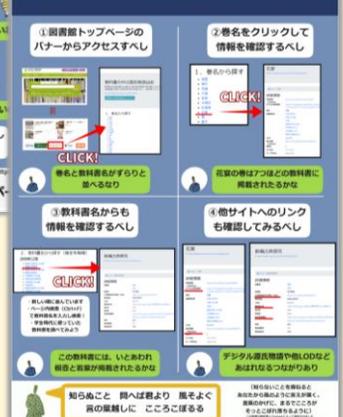
データを眺めて楽しむ、源氏物語研究、授業の教材研究として利用するなど様々な方法で活用することができます。ぜひ、サイトにアクセスしてみてください！



アクセスはこちらから



「教科書の中の源氏物語LOD」使い方



2025新入生歓迎企画 「学芸本ガチャ！」を実施しました！

普段出会わない本との出会いおよび電子ブックの利用促進を目的として、2022年から「学芸本ガチャ！～読書の世界を広げよう！～」を定期的に開催しています。今回は、新入生歓迎企画として4月11日～7月24日に実施しました。

オンラインガチャは図書館Webサイト上で通年遊べます！ぜひアクセスしてみてくださいね◎



次回も皆さんの
トライお待ちしております！
お楽しみに～！！



- リアルガチャ : 学芸大の先生のおすすめ本
- オンラインガチャ : 新たに【学生生活】のガチャを設置



NEW! 【2025年04月11日公開】

大学生の生活に関する
本が入っています。



【2024年10月15日公開】

美術や音楽などアートに
関する本が入っています。



【2024年4月12日公開】

論文やレポートの書き方に
関する本が入っています。

<参考>

[【開催報告】2025
新入生歓迎企画
「学芸本ガ
チャ！」を開催し
ました！](#)



[「学芸本ガチャ！」
特設サイト](#)



2025年5月29日、GREEN TECH ENGINEER LABに所属する附属小金井中学校の生徒さん（製作当時）から、**木製のガチャマシン**をご寄贈いただきました。これまでも附属図書館には、同ラボの皆さんから**ベンチ**や**棚**をご寄贈いただいております。利用者の皆さまに親しまれています。

4月～7月に実施した2025年度新入生歓迎企画「学芸本ガチャ！」の期間中には、これまで使用していた段ボール製ガチャに代わり、新たな主役として図書館1階に設置しました。木のぬくもりと木目の美しさが感じられ、館内の雰囲気にもぴったりの素敵な作品です。

今後の企画でも活用していく予定ですので、見かけた際にはぜひ遊んでみてください。



<木製のガチャマシン>



<2024年度寄贈の棚>

「東京学芸大学附属図書館 〈未来の先生支援〉古本募金」事業

「東京学芸大学附属図書館〈未来の先生支援〉古本募金」プロジェクトで集まった寄付金を利用して、2025年度は「英語多読用テキスト」72冊、「教科教育関連図書」2冊、合計74冊の資料を購入しました！

2017～2018年度の古本募金で購入した分に補充する形で選定し、配架しました。すべて1階グローバルエリアの英語多読資料コーナーに置いておりますので、ぜひご利用ください♪通学時間や休憩時間にもぴったりです📖

ご寄付の方法や購入資料一覧はこちら↓
[図書館ウェブサイト](#)>[附属図書館について](#)>[古本募金事業](#)



大学史資料室展示を開催しました

大学史資料室にて以下の展示を開催しました。

- ◆ 東京における師範学校の成立
(2025年4月11日～6月20日)
- ◆ 師範学校の展開と戦時下の様子
(2025年7月2日～9月26日)

いずれの展示も本学の前身である師範学校に関する当時の資料や写真を展示し、多くの方にご来場いただきました。



[東京学芸大学大学史資料室・常設展示](#)



電子展示 「絵双六の世界 ～遊びと学習美(まなび)～」を 公開しました



ジャパンサーチのギャラリーにて電子展示「絵双六の世界～遊びと学習美(まなび)～」を公開しました。

2005年11月1日～6日に東京学芸大学附属図書館で開催した企画展示のオンラインギャラリーです。本学が所蔵する双六コレクションの一部を解説とあわせてご覧いただけます。

[ジャパンサーチ](#)>[ギャラリー](#)>[絵双六の世界～遊びと学習美\(まなび\)～](#)



図書館ミニ展示 「赤毛のアン」を 開催しました



2025年4月18日～6月4日、図書館1階ラーニングcommonsにて、図書館ミニ展示「赤毛のアン」を開催しました。

『赤毛のアン』はもちろんのこと、関連書籍として著者モンゴメリについての本や翻訳者村岡花子についての本、少女小説についての本やカナダについての本、『赤毛のアン』が採録された教科書など、さまざまな図書を展示しました。

春学期学習サポータ活動報告

学習サポータ企画展示「学芸万博～世界をめぐり、教育を考える～」が、7月31日から12月まで図書館1階ラーニングcommonsにて開催中です。

この展示では、万博のテーマに学芸大生の視点を絡めて、世界の多様性に触れ、教育という営みの可能性を見つめ直すという観点から展示を構成しています。気になる一冊と出会いに、ぜひお立ち寄りください！



図書館・展示棚の貸出

図書館では1階ラーニングcommonsにて展示用の壁面棚を貸し出しています。学生・教員の学習・研究成果等の発表の場として、ぜひ活用してみませんか？

詳しくはこちら：
[図書館ウェブサイト](#) >
[利用案内](#) > [図書館の利用](#) > [展示棚の貸出](#)



≪ ここで、実際にご活用いただいた例として、今年度実施した展示をご紹介します！ ≫

家庭コース展示 「家庭科生おすすめの本」

7月23日から8月22日まで、家庭コースの学生による本のプレゼン展示「家庭科生おすすめの本」が開催されました。学生が授業の中で作成したプレゼン資料を掲示し、絵本をはじめ、家庭科・生活科や教育に関する本の紹介を行うとともに、家庭科・生活科学の魅力を発信する展示となりました。



小金井市立はけの森美術館連携展示 「モダニズムでつながる」

小金井市立はけの森美術館の特別展「中村研一とモダニズム」の連携企画として、同美術館学芸員選定による、モダニズムをキーワードとした書籍の展示「モダニズムでつながる」が8月25日から9月25日まで開催されました。美術館の展示とのつながりを考える、視覚にも面白い展示となりました。



edumotto 連携企画

edumotto（東京学芸大学公式ウェブマガジン）の学生による司書体験記事の第2弾が公開されました。今回は利用者サービス係と文献サービス係のお仕事を取り上げていただいています。第1弾と併せてぜひご覧ください。

第1弾：『[知識を集めて未来へ。大学図書館の司書のお仕事って？](#)』



第2弾：『[大学図書館の司書のお仕事って？～ひとと資料がつながる拠点 edumottoメンバーが体験！～](#)』 ←New！



附属学校の学びの成果をご紹介します

附属図書館では、各附属学校司書の協力のもと、児童・生徒の皆さんが日々の学習や活動を通して制作した成果物を、1階学校図書館コーナーにてご紹介しています。今回はその一部をお見せします！

附属世田谷中学校「3年生表現【塑像】言葉の獣」

5月から7月にかけて、附属世田谷中学校での美術科・図書館・国語科の連携による実践事例展示が行われました。言葉からイメージを膨らませ形にするという、ユニークな表現活動の成果として作成された作品は、どれも生徒たちの瑞々しい感性や想像力が光るものでした。



附属高等学校「家庭科『防災新聞を作ってみよう』」

7月からは、附属高等学校での教科横断授業の成果物として「災害・防災」という共通テーマをもとに、生徒たちが様々な視点から作成した防災新聞の展示が行われました。内容は身近な話題から最新の防災技術の紹介まで幅広く、生徒たちの探究心が感じられる力作揃いでした。



展示は定期的に入れ替えていますので、図書館にお越しの際はぜひご覧ください。アイデアや努力がぎゅっと詰まった展示です！

東京都立西高等学校

『人間と社会』(総合的な探求の時間)職場体験活動

2025年8月20日(水)・21日(木)に、東京都立西高等学校の生徒さんをお迎えし、東京学芸大学附属図書館にて職場体験活動を行いました。

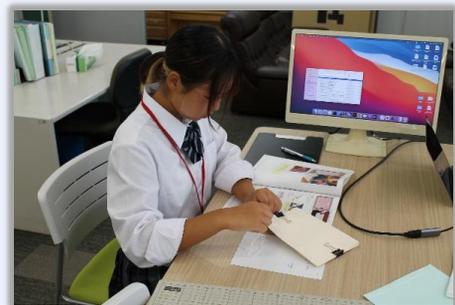
当図書館の概要などを説明した後、カウンター業務、図書・雑誌の整理業務、和綴じの体験など、館内の業務を一通り行っていただきました。生徒さんは、メモを取りながら真剣に業務に取り組んでくださいました。ありがとうございました。



返本作業の様子



和綴じ体験①



和綴じ体験②



『東アジア文化圏の形成』
李成市著
(山川出版社, 2000.3)
ISBN : 9784634340701
請求記号 : 220/R32

第二次世界大戦後、日本は戦前の歴史研究の一国史観の反省から、東アジアのなかの日本、東アジアの歴史のなかに位置づけて、日本史を研究するようになった。これは日本の歴史学界においてはきわめて積極的な、意欲的な取組みとして、現在にいたるまで継続されている。ところで、歴史学において、東アジアのつながりを統合的に説明した研究者に西嶋定生がいる。西嶋は東アジア世界や東アジア文化圏、漢字文化圏という表現を使用して、日本・朝鮮半島・ベトナムについて、漢字・儒教・律令・漢訳仏教を共有する文化圏として捉えた。しかし、これは中国文化がすぐれていたから広がったのではない、と彼は考える。中国の皇帝と周辺諸民族は官爵を通じて結ばれる政治体制に参加しており、この体制、冊封（さくほう）体制を媒介として先の四者は東アジアに共有されたのである。西嶋のあと、羈縻（きび）や朝貢などの視点で東アジア史を捉える論者もあらわれたが、いずれにせよ、私たちはもはや日本の歴史を考えるとときに日本のなかに閉じこもっているわけにはいかない。

李成市は、西嶋の研究を受け継ぎ、朝鮮半島の碑文も使い、高句麗・百済・新羅の媒介者としての役割の考察など、冊封体制や東アジア文化圏の議論を再検討し、新境地を開いてきた。ただ、李の指摘でインパクトがあったのは、東アジア世界論は必ずしも韓国の歴史学界において一般化していないということである（大東亜共栄圏を想起させるなど）。それは中国でも同様である。中国の沿岸部は中国の領土にとって四方の一つ、東側の交流相手の一つに過ぎない。私は授業では、「東アジアは片想い」という言葉で説明している。新たな東アジアの歴史研究が俟たれている。

東京学芸大学附属国際中等教育学校 総合メディアセンター紹介

今回は本校の図書委員会活動をご紹介します。日常的には昼休みと放課後にカウンター当番をしていますが、毎週月曜日の放課後には中高生合同のミーティングが開かれます。中高生になると部活動やレポート課題、塾や習い事・・・と図書館や読書からはどうしても距離ができてしまいがちです。そこで生徒達の視点から「どうしたらもっとみんながメディアセンターに足を運んでくれるようになるか」と知恵を絞ってもらうようになりました。

例えば2年前から開催している「メディアセンター・フォトコンテスト」は企画、広報、審査をすべて図書委員の生徒たちがおこなっています。大賞作品は、学校HPに1年間掲載されることにしたため、司書も驚くような視点で撮影された作品が多数集まりました。また長年発行してきた図書委員会の紙の新聞も廃止し、今では館内展示やイベントなどをインスタで配信しています。委員会としてインスタを開設することは高いハードルがありましたが、「図書館に来ない生徒ほど、休み時間は教室でスマホを見ているから」と、図書委員長が何度も企画書を書き直し、職員会議で認められたのです。目的を実現するためには、自分たちで考えて行動する、まさに委員会もIB教育の一環だと感じています。

(文責：東京学芸大学附属国際中等教育学校
学校司書 渡邊 有理子)



↓フォトコン佳作
「眺めの先には」

←フォトコンテスト大賞作
「景色が倍で楽しめる」



↑フォトコンテスト次点
"and a new story begins"



図 書 館
か わ ら
ば ん 眼

図書館かわらばん No. 14
2025年10月14日 発行
東京学芸大学附属図書館
〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1
TEL:042-329-7223 FAX:042-329-7226
URL:<https://lib.u-gakugei.ac.jp/>

東京学芸大学附属図書館公式Xでは図書館に関わるお知らせについていち早く発信しています。



www.twitter.com/gakugei_lib